

第 18 回 明治大学小史展

尾 佐 竹 猛 展

会期 2005・4・26 日（火）～9 月 29 日（木）

会場 駿河台キャンパス・大学会館 1 階ロビー

主幹 明治大学史資料センター事務局

今回の明治大学小史展で取り上げた尾佐竹猛（おさたけたけき）は、1880（明治 13）年、旧金沢藩の下級武士の家に生まれました。1896（明治 29）年に東京へ遊学、明治大学の前身である明治法律学校に入学します。1899（明治 32）年、同校を優秀な成績で卒業後、法曹の世界で活躍、現在の最高裁判所に相当する大審院で判事を務めました。

また教育者として、明治大学で教鞭を執り、特に 1932（昭和 7）年の専門部文科（文学部の前身）再興に深く関わり、初代専門部文科長（学部長に相当）を務めました。

そして、学者としての研究成果は、「明治維新史」、「憲政史」、「法制史」、「文化史」、「地方史」と多岐にわたり、新しい歴史観を拓きました。

展示に関するお問い合わせは、明治大学史資料センター事務局（大学会館 6 階）までお願いいたします。

I 尾佐竹猛の業績

展示スペースの関係で、常時展示替えをしております

1 尾佐竹猛肖像

尾佐竹猛は、1899（明治32）年に明治法律学校を卒業、その後、各地方の裁判所や控訴院で判事を歴任、さらに1924（大正13）年1月には大審院判事になりました。

2 尾佐竹猛・著書

尾佐竹猛の著作活動は、大正時代末期から昭和戦前期が中心です。戦後直後には『著作集』の刊行も計画されましたが、全巻刊行されずに終了しています。

展示では、10冊程度の著書を紹介しています。随時展示替えをおこないます。

3 尾佐竹猛・書簡

研究者としての尾佐竹猛を語る場合、明治文化研究会における活動が特筆されます。明治文化研究会とは、吉野作造が中心となって設立された会です。活動時期は大正・昭和期で、同人には、初代の会長でもある吉野をはじめ、この書簡の宛て先でもある宮武外骨、石井研堂、小野秀雄などがおり、尾佐竹も中心的メンバーとして参加していました。

4 『海南法権史』（1908・明治41年）

この『海南法権史』は、尾佐竹猛が新島の裁判所に勤務していた時に著したものです。明治大学史資料センター運営委員の調査により発見されました。

5 日本文化史展覧会（1940・昭和15年）

この写真の裏面には、右記のように記されています。山田仁彦氏より受贈。

（参考）昭和十五年五月十九日

日本文化史展覧會ニ

秩父宮同妃両殿下

御台臨アリ

尾佐竹猛御説明申上ゲ

Ⅱ 尾佐竹猛と明治大学

6 明治法律学校卒業関係記事・『明治法学』第 2 号（1899・明治 32 年）

尾佐竹猛は、1899（明治 32）年 7 月、資料にありますように上位の成績で明治大学の前身・明治法律学校を卒業しました。その後、同年 11 月の第 1 回判事登用試験に合格します。

7 尾佐竹猛と校友会・『明治法学』第 51 号（1903・明治 36 年）

尾佐竹猛は、1902（明治 35）年 12 月、校友会福井支部の幹事に選出されています。その後も尾佐竹は、校友会との繋がりを持ちつづけます。

8 明治大学評議員に就任・『明治大学学報』第 23 号〔コピー〕（1918・大正 7 年）

尾佐竹猛は、1918（大正 7）年 7 月に明治大学の評議員に就任します。

9 関東大震災後の臨時校友総会に出席

・『明治大学学報』第 86 号〔コピー〕（1924・大正 13 年）

関東大震災は、明治大学に甚大な被害をもたらし、学園存続の危機さえ、ささやかれました。多くの関係者が復興に協力する中、尾佐竹猛も、この臨時校友総会に参加し、震災の被害状況の報告を受け、復興策について話し合いをおこないました。

10 明治大学商議委員に就任・『明治大学学報』第 94 号〔コピー〕（1924・大正 13 年）

尾佐竹猛は、1924（大正 13）年 8 月、校友会選出の商議委員に選出されました。商議委員会は、法人の最高意思決定機関で実務に最高責任を持つ理事の任免権を持っていました。

11 明治教育文化展覧会・「駿台新報」〔コピー〕（1928・昭和 3 年 4 月 21 日）

尾佐竹猛は、明治大学創立 45 周年・旧記念館竣工を記念して開催された「明治教育文化展覧会」の委員になりました。なお、この展示会は、明治大学における最初の大学史展示でした。

12 文科復活趣意書（1931・昭和 6 年）

13 文科復活記事（1932・昭和 7 年）・「駿台新報」（1932・昭和 7 年 3 月 12 日）

明治大学には、1904（明治 37）年から 1909（明治 42）年にかけて文科（文学部の前身）が設置されていました。しかし、この文科は一旦廃止され、1932（昭和 7）年に復活します。資料 12 は、文科復活に向け、その前年に臨時商議委員会に提出された趣意書で、尾佐竹猛の名前も見えます。資料 13 は、文科復活を伝える「駿台新報」の記事です。尾佐竹猛については「明大の産んだ司法畑の偉材」と紹介されています。

尾佐竹猛 略年表

明治 13 年 (1880)	旧金沢藩士・尾佐竹保、愛の長男として生まれる (1 月)。
明治 27 年 (1894)	高浜小学校卒業 (3 月)。
明治 29 年 (1896)	東京へ遊学。
明治 32 年 (1899)	明治法律学校を優秀な成績で卒業 (7 月)。 判事登用試験に合格 (11 月)。
大正 13 年 (1924)	大審院判事 (1 月)。 吉野作造らと明治文化研究会を創立 (11 月)。
昭和 3 年 (1928)	「明治教育文化展覧会」に委員として参加。 「維新前後における立憲思想」で、東京帝国大学 (現、東京大学) より法学博士の学位を受ける (11 月)。
昭和 7 年 (1932)	明治大学に専門部文科 (文学部の前身) が再興され、初代専門部文科長に就任 (4 月)。
昭和 8 年 (1933)	明治文化研究会の 2 代目会長に就任。
昭和 17 年 (1942)	大審院検事 (12 月)。
昭和 21 年 (1946)	死去 (10 月)。

★明治大学史資料センターからのお知らせ★

明治大学史資料センターでは、このたび、『大学史紀要』第9号を「尾佐竹猛研究Ⅰ」と題し刊行しました。

今後も著作集 (仮) (2005 年 9 月、第 1 期刊行予定、詳細は未定)、また、『大学史紀要』第 10 号において「尾佐竹猛研究Ⅱ」の刊行を計画しております。

『大学史紀要』第9号

* 価格 800 円

* 頒布場所 明治大学史資料センター事務室 (明治大学駿河台キャンパス・大学会館 6 階)

〔編集・発行〕 大学史資料センター事務室 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1 電話 03-3296-4329 URL http://www.meiji.ac.jp/history/ 〔発行日〕 2005 年 4 月 26 日
--